



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

雑報. 地球 1930, 13(3): 226-236

ISSUE DATE:

1930-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183726>

RIGHT:

されて、瀧川政次郎、本庄榮治郎、瀧本誠一、石坂橋樹、竹越三叉、小野武夫、黒正巖氏等主として經濟歴史家の著者から我國の農民生活に關した歴史及其過程を輯覽せられたといふのが本書の自序である。目次は上代、中代、近代の三章にわかれ上古に於ては大化以前、大化大寶の田制、班田等をのべて標準戸の經濟をのべ上代農民生活、社會生活の實情をしるし、中世に於ては、社會階級や、土地税法や、土一揆をのべ、近代に於ては徳川時代の農村、耕地、税法、人口、小作、飢饉、米問題百姓一揆等に及ぶ。著者は先進の業績によつて編したまでだといつてゐられるが、それにしてもこゝまで簡潔にまとめ上げるには骨の折れたことであつたであらう但し大化以前の田制や班田の説明に於てはまだ不十分と思はれる節があり、上代の米の收穫高から見た一升の實積などについては評者にこれと違つた意見がある、やがて莊園から華かれる封建制度への移り變りについても、説明は十分でない猶又中世の社會生活に就て座の研究に筆が及んでゐない恨があり、城下町の發達なども十分に論じられてはゐない。しかし徳川時代になつてからの記事にはいろ／＼教えられる所が多い、何れにしても菊版四百四十五頁の冊子であるのに問題は廣況である、説明の足らぬのも致方がないと考へる。

評者はこれを以て本書の缺點であるとはしない、寧ろかうした方面に注意を向けられた著者の努力を多とし人文地理學を研究する人に一讀をすゝめる。蓋し日本の人文地理を論ず

る人は、一通り我農民の歴史過程を知らねばならぬと考へるからである、最後に近頃古今書院から出た本の中で、最も面白く讀まれる本の一つであることを述べておきたい。(藤田)

## 雜報

○黒部峡谷の幽勝(口繪解説) 口繪第一圖は、東鍾釣山と其南麓に於て清流に臨める新鍾釣(一名錦繡)温泉場で、東鍾釣山は鐘狀を爲し、積翠滴るが如き美しい山で、大部分白色糖狀の石灰岩から成り、温泉場附近から晩秋紅葉の美觀は眞に錦繡の名に背かない。第二圖は黒龍川に架せる日本水力電氣株式會社の跡曳水路橋で、近く觀ゆるは同社専用軌道の鐵橋である、水路橋は、河面上二三〇尺、徑間約一三四尺、鐵筋混凝土拱橋で、水路を流し來りたる過剰水を放流するのであるが、周圍の絶景に更に小ナイアガラの壯美を加へたもので鐵橋上を電車で通過する時、誰も其美觀を嘆賞せぬものは無い。

○平安北道寧邊郡の大鍾乳洞蝸龍窟 「朝鮮」二月號所載森爲三氏の記事によると此大鍾乳洞の狀況は次の如くである。窟は寧邊郡龍山面雲鶴站到在り、球場里の南東三十餘町の龍門山の南麓海拔百十米に洞口がある。洞口は高さ一米半幅三米半の橢圓形をなしてゐる。地質は頁岩を介在する寒武奥陶紀の石灰岩である。本洞には支洞が多いが幹洞の全

長千四百六十三米あり、幹洞に就て述べる。洞口から西に向ふこと八十米で八百餘坪もある廣大な洗心洞に達し、ここから南方にまがり、鍾乳洞、平坦な練兵場を経て、洞口から四百二十米で天井が低くなつて匍匐すること四十米で、こゝから東に向ひ左手の四五十度の崖を下ること三十米、又三十米餘上ると百坪程の平坦な蝙蝠洞に入る。洞床の洞壁に接した處には厚さ數寸の糞グアノが堆積してゐる。次で成佛嶺を下すると洞口から六百九十米邊で幹道は急に左折して北東に向つて居る。左折するや否や漸く一人が通過し得る位な石溪門に達する。之をくぐると多佛洞に進入る。こゝは洞の高さ三十米、洞床の面積一千餘坪、岩壁は屏風の様に削立し、鍾乳石は到處懸垂し、石筍は無數に簇立して居る。獅子岩、如来佛、十大王、寂照塔等は就中大な石筍である。多佛洞から坂を二十米下ると龍淵洞といふ大池がある、長さ百米、幅五米から二十米ある。池中には熊の遺骨が散在して居る。本洞の盡きる所に猶一つの池がある。共に小船に乗つて渡らねばならぬ。これより碧天洞、七佛洞があるが後者の洞床には猪の骨片が散亂し石灰華に包まれて居る。七佛洞から二十米進むと洞は豁然として面積千四百坪に達する金剛洞に入る、こゝは天井高く、景觀雄大に、沈澱物も豊富で窟中第一の絶勝をなしてゐる。殊に南側及北東側の壁には白色の石灰華が瀑布狀をなし、鍾乳石と、大石筍多く、床は石灰華が畦をなし、其間に數十の小池が作られ美觀極りない。洞内には降仙臺

金剛瀑、石瀧、金剛塔、白雲塔、仙浴潭、仙鐘塔、海陀塔、仙洗臺等がある。金剛洞から萬物相を過ぎ遂に龍泉洞に至つて終つて居る。要するに洞の平均幅は四十米内外あつて洞口から洗心洞までは狭く三四米に過ぎないが洗心洞、多佛洞及び龍淵洞から金剛洞までは廣くなつて百米から百五十米に達する。高さも高低があつて最も低い處は半米位であるが、かの幅の廣い處では高さも高くて六七十米に及んでゐる。平均の高さは二十米内外である。探勝時間は幹洞のみで五六時間はかかる。洞内には到處鍾乳石、石筍、石柱があり、又鷲管石と稱する石筆狀の鍾乳石のある處もあるし、泥筍といふ粘土の石筍様のものもあるし、豆石も存在する。且つ洞内には淵あり瀧あり坂あり斷崖あり石灰華の瀑布狀をなすもの階段狀をなすもの等があつて一步一步景觀を異にし誠に地下金剛の稱あるも宜べなりである。最後に本鍾乳洞の特徴を擧げると第一に洞の廣大なことで、其幅と高さに於ては秋芳洞やマムモスケープに優つてゐることである。第二に鍾乳石及び石筍の發達良好なことで前者の長きものは四五米に及び、後者はこれよりも大にして最大のものは十米餘に達する。石柱も亦直徑四五米、高さ十米に近いものがある。大分縣の風連鍾乳洞よりも鍾乳石の發達がよい。第三は石灰華の沈澱に伴はれて多數の小池が作られてゐること。第四には動物の遺骨が洞内に存在すること、七佛洞及び金剛洞には猪の遺骨、龍淵洞及び碧天洞には熊の四肢骨、脊柱、肋骨等があり、尙ほ

龍淵洞の水中には非常に大形の朝鮮黑熊の頭骨があつた。第五には大池があることである。

### ○我國に於ける最優秀船秩父丸の概要

二月六日横濱船渠會社に於て起工され同年五月八日進水し同造船所内に於て艦裝中の香港、横濱、桑港線に用ふる秩父丸が来る三月十日竣工を遂げ同航路に處女航として美しい姿を見せるといふ。由來我國に於ては其の噸數に於ては英獨等の海運國に比し遙に劣つてゐたが其内部の設備等に就いては近年長足の進歩を來し此等一流海運國の間に伍して恥しからざる状態となつて來た。茲に淺間丸進水し太平洋上に其の雄を争つてゐたが今其姉妹船たる秩父丸が其の雄姿を表はすといふので、太平洋航路に於て外國船に劣らざるものとなつた其の概要を記載する。

#### 一、船體 全長五八三呎三吋

巾 七四呎

深 四二呎六吋

吃水 二八呎六吋

キールよりマスト頂上迄の高さ 一六四呎

煙突の太さ(楕圓形)

長徑 三五呎六吋(約壘四十枚敷)

短徑 二四呎

二、噸數 排水噸 二二、二〇〇噸

總噸數 一六、七五〇噸

#### 三、速力 一九節

載貨重量 八、〇〇〇噸

#### 四、機關 ディーゼルエンジン、二基

實馬力 二〇、〇〇〇馬力

#### 五、旅客定員

特別室 二室 定員十名

各居間、寢室、隨員室、化粧室、浴室、手荷物室付

一等 一人室、二人室、三人室、四人室等 七七室

定員 一八二名

其他 一等二等兼用二人乃至三人室 一七室

二等 三十室 一四六名

三等 五〇〇名

#### 六、重なる旅客設備

一等客用

廣大なる遊歩甲板、讀書室、社交室、畫廊、喫煙室、ベランダ・カフェー、日本座敷、小兒遊戲室、食堂、個人宴會場、大泳場、室内運動場

二等客用

遊歩場、社交室、喫煙室、ベランダ・カフェー、大食堂等  
三等客用  
遊歩場、喫煙室、前後部大食堂、日本浴場、客室は四人乃至十六人部屋に區劃

其他

賣店、住友銀行出張所、理髮室及婦人美容室、診療室及病室、電話交換室、其他各旅客甲板に大エントランスホール及旅客用エレベーター、各室電話、パンカール式通風暖房装置、日本、支那、西洋料理用大厨房、洗濯場七、重なる航海設備

ジャイロコンパスによる自動操舵装置、無電方向探知機

クリープビュースクリン、レンヂファインダー

ランヂパン式船底測深儀、L式サルログ

吃水測定器、無電、探照燈(百二十萬燭光)

ウエリンマクラ克蘭式電働ホートグビット

自働救命艇二隻(無電装置)

デルビー式火災報知機、ラツクスリツチ式消火装置

大要右の通りで其の設備装置は和洋の粹を集め善美の限りを盡したもので真に海上のホテル、陸上ホテル以上の贅澤を施したものである。

今や世界の總ての力は太平洋に向つて集中されつつある際に當り其の航路に如斯雄大なる船舶を以て此の競争の場裡に立てんとする蓋し當然の趨勢であらう。(吉田)

## ○一九二八年の世界貿易

各國の貿易額左の如し。

輸 入	輸 出	合 計
米 國 四、〇七七(百万)	五、〇三〇	九、一〇七
英 本 國 五、二三八	三、五一九	八、七五七

獨逸	三、三五一	二、七一九	六、〇七〇
佛 國	二、〇九五	二、〇一三	四、一〇八
加 奈 陀	一、二二二	一、三五〇	二、五七二
日 本	一、二〇二	一、〇六六	二、二六八
英 印 度	九一一	一、二〇六	二、一一七
伊 國	一、一五九	七六四	一、九二三
和 蘭	一、〇七九	七九九	一、八七八
亞 然 丁	八七五	九八七	一、八六二
白 耳 義	八七六	八三八	一、七一四
濠 洲	六六二	六六〇	一、三二三
支 那	六九九(一九二八年度)	六三四(一九二八年度)	一、三三三
英領マレー	四八六	四七四	九六〇
致須國	五七三	六一七	一、一九〇
蘭領印度	三八九	六三六	一、〇二五
瑞 西	五一一	四〇七	九一八
瑞 典	四五八	四二二	八八〇
ブラジル	四四一	四七四	九一五
丁 抹	四三四	四一二	八四六
南阿聯邦	三六一	四五二	八一三
ロシア	四九〇	三三五	八二五
西班牙	四二八(一九二七年)	三一三(一九二七年)	七四一(一九二七年)
奧地利	四四七	三一〇	七五七
波 蘭	三七七	二八一	六五八
	三九	六九	

キエバ	二二二	二七八	四九〇
愛蘭	二八〇	二一八	四九八
埃及	二四八	二七五	五二三
メキシコ	一七八	二九六	四七四
ニユージーランド	二一三	二六三	四七六
ルーマニア	一九六	一六四	三六〇
ノールウエー	二六八	一七九	四四七
トルコ	—	—	—
ハンガリー	二〇六	一四三	三四九
智利	一四二	二三八	三八〇
セイロン	一四六	一三七	二八三
芬蘭	二〇二	一五七	三五九
アルジェリヤ	一八三	一五二	三三五
スイス	一三五	一五〇	二八五
ギリシヤ	一六二	八二	二四四
ユーゴスラヴィヤ	一三八	一一三	二五一
佛領印度支那	一〇六(一九七)	一二三(一九七)	二二八
コロンビヤ	一二六	一二四	二四八
ウルグアイ	九四	一〇一	一九五
ペルシヤ	六三	八六	一四九
シヤム	七五	九七	一七二
バルー	八〇	一五二	二三二
ホルトガル	一一〇(一九三)	—	一五七(一九三)

右の表によれば世界貿易上の順位は第一米國、第二英本國、第三ドイツ、第四フランス、第五カナダ、第六日本、第七英領印度、第八伊太利、第九オランダ、第一〇アルゼンチンとなる。何といつても其屬領を合すれば英國が第一位になる、歐洲諸國の合計は他大陸に優り、平均して進歩の傾向にある、日本は以前に比べて總貿易額が著しく減少してゐる。之に反して獨逸、アルゼンチン、オランダ、ベルギー等は増加の勢をしめす、蓋し歐洲の内にも高級な産業國、獨逸、佛、英、白と低位にして原料供給國デンマーク、ロシア、バルチック海岸等があるけれども、概して他大陸に對して供給國であるよりも買客であるが、北米諸國は需要者たるよりも供給者である、アジアも亦世界への原料供給國であつて、特に日本及支那の生糸、印度の棉花、黄麻、蘭領印度のゴム、更に支那の大豆と其製品は著例である、南米は歐洲への原料供給地であると見るべく濠洲はその生産物の寄與は少い。アフリカは礦物及農産物を輸出する、大戰後既に十年、世界の貿易は之を戦前に比して既に一割二分乃至三分を増加したことは注意すべき事實であらう。

### ○極東の米穀

米の世界生産高については其一部特に支那に關する統計の據るべきものなきを以て概算による外なきが、今假に支那の生産高を最低三億乃至四億キントル見當とすれば世界の穀總生産額は約十億二千萬キントルとなり、恰も世界小麥生産高の約十一億乃至十二億キントルに近づく。

米穀市場は自然條件の如何に支配さるゝ所多く他の穀物市場とは著しく異なる特徴を有せるは周知の事實であるが、之を小麥市場に比して地域的に著しく制限される、即ち先づ第一に其耕作法が集約的な結果、米は小麥に比し二分一以下の面積を以て、約同量の收穫を擧げうるから、小麥の世界作付反別が一億八百萬ヘクタール以上に達せるに、支那及印度支那の一部山岳地方を除外して世界水田面積は約五千四百萬ヘクタールに過ぎない。

而も其九割八分は極東に占められ、從て其生産高の約九割七分は極東の生産である、次に支那、印度支那、英領印度、馬來諸島、日本を含む東洋米産國と見做さるゝ地域内に於ても米作は日本及滿洲の一部を例外とし、他は大抵赤道と北緯三十度との間が米作に最適の地方、主として季節風の齎らす降雨の影響をうくる地に限られ、猶この限られた地域内で更に水田に最も必要な條件を有する沖積地に集中する。即ち紅河メコンの兩河、カンザス、アラマプトラ、イラワザ諸河のデルタが主産地となる、東蒲塞及暹羅の平原も同様である、此等平原の耕作法は注水した苗床で苗を植えて之を水田に移植するのである。

歐洲と北米の殆ど全人口(六億四千萬人)及西部アジヤ、濠洲の一部に及ぶ小麥又は裸麥常食者數と、米常食者數(八億五千萬人)との間に比較を試みやうとするのは無益である、事實東洋諸國の内には實際上米が其食糧の根柢を爲す地方と

單に補足的乃至一種の贅澤食糧として上流生活者の間のみ消費せられ、之を常食とすることが一種の開化を表徴し、或は文明の度を語るものとせらるゝが如き地方とがあつて、兩者の間に可なりの差が認められる、後者の例は支那北部地方又は印度の或地方に存する、然し米の生産消費共に大なる地方の米の主要食としての役目はパンを常食とする諸國の小麥又は裸麥の役目に比較すれば頗る重大である、此等の米食國では人類糧食の三分一は米に依て占められ、而も其割合は暹羅又は臺灣の如き國は二分一以上に居る。

右の事實は印度支那の一家族の家計の米の割合と佛蘭西の一家族の家計のパンの割合とを比較すれば一層明瞭であつて即ち前者が七割五分なるに對し、後者は僅に五分であるに過ぎない。

されば米の大生産國並消費國は共に米の單一耕作國とするの傾向を有し、從て先づ第一に其生産地自體が其生産高の重要な部分を消費する結果、米の國際貿易は小麥に比すれば生産高の一部分のみに付て行はるゝに過ぎない。今國際統計年鑑による一九一三年及一九二六年の主要米消費國の人口と一九二五年の粗生産高とを對比すれば左の如である。

英國印度	三一九、五〇〇	人	一九二六年	一九二五年の粗高
セイロン	四、二六二	人	一九二五年の粗高	キンタル
日本内地	五三、三六三	人	一九二五年の粗高	キンタル
			六〇、三五〇	二、五〇〇
			一〇七、九六四	

臺灣 三、二六五 四、二〇〇 一、六五一  
朝鮮 一五、一七〇 二〇、三五〇 二六、七一五  
印度支那 一七、四〇〇 二〇、七〇〇 五七、六二〇  
蘭領印度 四三、九二五 五一、三五〇 四七、六五二  
海峽植民地 二、八一三 三、七五〇 三、六五五  
及馬來半島 九、四〇七 一一、六七〇 二〇、七五二  
比律賓 八、三五七 九、九二〇 四九、四七二  
暹羅 四七七、四六二 五一四、三七五

合 計 四七七、四六二 五一四、三七五  
かくて人口數に比して、生産の多い英領印度、佛領印度、支那及暹羅等が米の輸出國たる資格があるわけである。右の表によつていづこに米が不足しいづこに米があまるかわかると思ふ。但し支那の米産高が統計に表はれないのが残念である。

## ○ウオルガ河の水運

ウオルガ河に入る河川支流湖水等は總計一千八十、全流三千六百十九軒の間に本河に直接に注ぐ河は左岸七十七、右岸五十五、内二十一は汽船航行可能で、八は貨物船の上下可能、四十七は筏流不可能である、旅客航行はツウエリより始まりツウエリより上流ではセリシヤロフカ河に汽船がある。ウオルガ河とネグ河とを連絡するチクウインスカヤ運河系はモロガ市附近に於てウオルガの左方より出る、レニングラードに至る最短の航路なるも、之をマリンスカヤ運河系に比べると天然にも人工も共に劣る。右兩運河系とイビンスクより上流のウオルガ河とは、西北國立汽

船會社の所管であり、ルイヴィンスクより下流はウオルガ國營河川汽船會社の所管に屬してゐる。

この河の活氣ある汽船航行はルイヴィンスクより始まるもので、この港からバルチック、白海への連絡があり、同時に鐵道連絡も良く、船舶修理所がある。

ニジノヴゴロト市は、河口より二千三百六十一軒に位しオカ河が注入する。オカの河幅はウオルガ河よりも廣い。こゝから下へは最大の汽船航行があつて、アストラハン及バルミに達するカマ河口よりアクツーパーの初に到る間は最良の航行區である、アストラハンから下流は河と云ふよりも海の感じがするこゝは風が船舶航行に影響を與へ、北風の時は二米も水面が下るが、南風の時は水面が非常に高くなる、海との間に淺洲があつて航海が不便である。

この河はソヴィエツト聯邦の國民經濟上極めて重大な位置をしめる、蓋し其流域の大き歐露の約三分一をしめ、住民の數はその約三割七分に達するからである。歐露全國の水路二十一萬八千軒の内ウオルガ流系は八萬二千七百キロをしめ、一萬八千キロは航行が出来る、ウオルガの船隊は一九二五年の調査ではソヴィエツト全體の汽船の四割四分に達し、非蒸氣船は三割六分をしめる、從つて本流とオカとカマの三水路は經濟上重要な位置にあり、自然の輸送業が發達した。ウオルガの上流地方は、工業市地帶、中下流は農業地帶である。ツウエリ、ルイビンスク、ヤロスラウリ、コストロマ、キネ



シマ、ニージノアゴロド等は直接本河に臨み、モスクワはモスクワ河及オカ河に依つてヴォルガ河と連絡する。上流工業地帯のうちモスクワ、ヤロスラウリ、ニジノアゴロドの三角地帯内に存する織物、金屬加工業等から貨物を送くる。その地方に集中せる人口一千九百萬人、その中五百萬人は都市に住んで、食料品、燃料、建築材等を下流から需用する。下流地方は穀物の農地で、戦前は剩餘穀物二百六十萬噸以上を出した。又牧畜、蔬菜、園藝も行はれる。猶本流は漁業が盛であり、下流左岸に鹽湖があつて、全聯邦産鹽の約四分之一を供給する。

上流の支流カマ、ヴェトルガ、ウシジャ等の沿岸には豊富な森林がある。又カマ及其支流によりて、ウラルに達し礦物鹽、穀物、バターを輸出し、更にシベリヤから穀物、バター皮革、毛皮等の原料を輸出する。

南方裏海岸の石油も、亦一部は黒海から諸外國に出るが、その一部はアストラハンから本流によつて内國市場に入る。

一八二〇年初めて汽船が出現した時代以前から、現にこの川の航運は盛大であつた。一八五〇年以後ヴォルガ汽船會社は急速の發達をした。最初の汽船は曳船用であり、其運賃は高かつたが、遂には人力又は馬力による曳船を驅逐した。一八五四年中に初めて旅客汽船サモレットが出来た。一八六〇年代には貨物汽船が殆ど水流全體に亘つて用に供せられた。一八八〇年には米國式の所謂三階船が現はれ重油を使用したの

で、經濟上の地歩を占め、爾來薪木を使用した汽船を驅逐してしまつた。一九〇〇年以後浚渫事業が盛んになり、ディーゼル汽船が用ひられるやうになつた、之をテプロホドと稱してゐる。一九一八年全部が國有となり一九二三年ヴォルガ國營河川汽船會社なる名目の下に、商業企業として船舶を管理するやうになつたのである。一九二五年現在で汽船千四百二十隻三十萬五千七百馬力、ソヴィエツト聯邦全體の五割五分を有してゐる。

ヴォルガの航行期間は毎年六月八月であるけれどもその輸送量は頗る多い、一九二七年に一千七百三十萬二千噸に達した、これで戦前の三分二に復したのである。

## ○セルブ・クロアット・スロヴァエーヌの國名改稱

ユーゴスラヴィ國のアレキサンデル王は同國に於ける人種的感情に基く種々なる政争を絶滅し國家統一を圖らん爲めクレーターを行ひ、デクダチエールの政府を樹立して一路統一に進んでゐたが、同國が從來行ひ來つたセルビア人本位の中央集權主義的行政制度は人種的禍根となつてゐることを認めたのと、正式の國名としてゐたセルブ・クロアット・スロヴァエーヌ王國なる名稱は夫れ自體に人種的差別の觀念を助長する虞ありして本年十月三日國名改稱の法律が公布された。

國名改稱の法律は其第一條に於て、セルビア人、クロアシア人及スロヴァエーヌ人の國家は「ユーゴスラヴィ」王國(Roy-aume de Yougoslavie)を以て其正式の國名とすることを規

定した。

國は一九二一年の憲法により三十三の地方に別れてゐる。是れ即ちツロアシー地方人民の利益を不當に侵害するものであるとしてラヂツチ、マチエツク等は極力之を排撃して居たが新法律は此點をも改めて自然の境界、交通の聯絡狀況等専ら客觀的規準に基いて境界を定め新に九個の州に分つこととした。

尚ベルグラード市はツエムン及バンセヴォと共に之を別個の行政區となし、之を *Prefecture de la Ville de Belgrade* と稱して内務大臣の直轄とすること及び各州の長官を知事とすること、知事は内務大臣及總理大臣と協議の上爲したる提議に基き勅令を以て之を任命すること、知事は其州に於ては政府の代表者にして一般的行政權を行使する事業を定めてゐる。(國際事情)(吉田)

### ○印度教徒の地震に關する傳説

印度教徒は今現に

龍神龍王の存在を信じて居る。龍神は印度教徒神話中の聖人「ガシヤバ」の夫人中の「カドウル」夫人が産まれた者で、それ／＼皆な蛇族の祖先となつて居る。龍神それ自身は蛇ではなく人間と蛇との兩性質を具有する超人間で、非常に人間を好み、時としては人間の形態を装ひ、人間と結婚して同棲するものである。又是等龍神の住所は地下數哩の地底に「バダラ」と言ふ部分があつて、その内の龍宮界 (*Drag Palace*) と言ふ所で權勢比類なき千頭の龍王「ワスキ」(セシヤともアナ

ンダ、ナカとも呼ぶ) に統御せられて、文化的社會組織を作りて居ると言ふことである。この龍王は全能の神毘沙門天 (*Vishnu*) の御神體より出現したもので、これが地震の眞原因となるものである。

神の城廓たる天空は空氣の上に鎮まつて居る、空氣は大地の上に、大地は海の上に、海は大龜の上に、それ／＼按置せられて居る。またこの大龜も強大なる千頭の龍王「ワスキ」の頭にて依つて持ち上げられて居る。當代の海の底深く、最下界に住む龍王「ワスキ」は恒に世界の全重量を一頭にて支へて居らることゝて、時々疲勞の爲め頭の交替を行はれるが、この時に起こる震動が即ち海陸の地震なるものである。

因に此の龍王の蜃局體は毘沙門天が年々四ヶ月間 (アサラ 一月「五月より七月迄の間に相當す」の明十一日より、カル テイク月「九月より十一月迄の間に相當す即ち印度の雨季なり」の明十一日迄) 地底に眠らるゝ時の御寢床の役を勤めるものと云はれて居る。

附記 印度の古書には太陰曆一ヶ月を二分し朔より望に至る間を明第何日と稱し望より朔に至る間を闇何日と稱す。

(S, O)

### ○支那の鶏卵

支那は年々數十億箇の卵を其儘又は加工して輸出し、昨年度の輸出總額四千四百萬海關兩、邦貨にて六千七百萬圓、支那輸出の4%をこへ輸出品の第四位に位するの勢あり、内生卵約六億萬箇は日本へ送り出され七百三十

萬兩に達した。

鶏卵の産地は、江蘇、安徽、河南、山東、湖北、直隸にて取引の關係にて奥地は廉價なるも、上海青島へくれば價格も高い。十年前濟南では八十五封度(卵一千個が六圓内外であり、上海で九圓内外、即一箇一錢未滿であつたが、本春上海では二錢内外である。

青島では上海よりも一割乃至五分安であつたが、近頃は需給關係で上海と接近した。

支那の玉は小粒で一千箇で八十五封度内外九十封度、中玉で九十封度乃至百封度、大玉百五封度乃至百十五封度に達する。

製品は甚だ多い、濕蛋白、濕蛋黃は蛋白又は卵黃に硼酸二分を混入したものなるが、英國は一九二六年之を人體に有害なりとして輸出禁止したのでなくなつた。

鹽黃とて卵黃に鹽一〇%安息香酸を入れたものは、獨逸にうれる、上海相場百斤三十五兩乃至四十兩、工業用として鹽の外に硼酸をいれたものが、佛國へうれる、蛋黃はリスリン一〇%卵黃九〇%を攪拌したものを天日に乾かしたものなるが缺點あり輸出不振、乾蛋白は蛋白を酸酵してアムモニヤ水一五%乃至一八%をいれて乾したもの、一九二三年迄はよく賣れたが目下賣れない、外人工場に機械製蛋白がある、品質がよくて數割高い。

乾蛋黃は卵黃を乾して粉末としたもの、百斤八五兩から九

十兩米國に輸出される。全卵を乾燥して、薄き塊狀にしたものは、品質がよくて需要が多い、百斤二十兩内外。

冷凍蛋品とて、生卵を攪別して良卵を破り、之を攪拌して全卵を混合し、之を濃過したるのち、冷凍室(〇下八度)のブリキ器にて凍結する、六時間で堅くなる、しかし作業困難であるが、凍結後は〇下六、七度の冷蔵庫に入れて貯へる、一等品と二等品がある、一噸五百兩乃至五百五十兩、一回の取引が千噸乃至數千噸に達し、大約一年分の取引を春に行ひ三、四、五、六の四ヶ月間に三分二乃至四分三を製産する、大工場は一日に數百萬個を破卵する、漢口、南京、上海、青島、天津に十數工場がある、上海が中心で、一九二八年には冷凍全卵、三二一、四八六擔、價格八、六八七、三〇〇兩に達した、冷凍卵白も六九一、九一三兩、冷凍蛋白も百萬兩を輸出した。

最初は四十年前獨逸人がはじめたが、支那人が之を製造するやうになつた、しかし乾蛋の方は外人工場の製品がよいので、支那製は駄目になつた、冷凍の方が優勢である、しかし經濟上春秋二期の産卵期しか仕事が出来ぬといふ不利があるしかもその需要は秋冬の候に多いから貯藏が六ヶ敷い缺點がある。

戰時日本人の蛋粉製造が起つたけれども支那人及外人工場に競争してやぶれたので、蛋粉は目下米人の専ら取引になつてしまつた。

近頃は日本の養鶏業が發達したゝめに、過剩卵の處分が考へられるやうになつてきたと同時に、支那卵は年々其の價が高くなつてきたから、やがては日本の生卵と其相場が接近し日本でも製卵工業が起るやうになるらしい、しかし日本の卵は支那卵よりも粒が大きくて卵白の量が比較的多すぎる、愛知縣あたりの産卵地ではそろ／＼卵の工場を計畫せねばならぬと考へる。

## 質疑應答

【問】 シアムの資源

大阪 T 生

【答】 シアムは東南アジアに於ける唯一の獨立國である、惠まれた堅實な進歩的の政府を有し、その資源は甚だ多い、國運の將來は有望である。

一八二六年英國と通商條約を結び、大戰後、歐洲各國、アメリカ合衆國及日本等十二ヶ國と修好、通商航海の條約を締結した、現今政府の高官たるものは多く皇族であつて、大部分は歐洲や北米で教育をうけたものであり、現ブラジャデヒボツク王は財政緊縮と同時に商業經濟方面に近代적の進展策を採り、多くの外人顧問を雇うてゐる。

シヤム人の大部分は主として農業を行ふ、全人口一千萬人中八百萬人までは土着のタイ族で彼等自らヌアンタイ（自由の王國）といふ、殘りの低地にはマレー人があるが、かなり

同化してシヤム語を用ひる。

支那の華僑がこゝでも小賣業を支配し、シヤムの錫採取は支那人によつて始められた。

歐人では英人が古くから活動し、大商業は英人の手にあり英語が通用する、首府バンコックは人口四十萬、メナム川口より二十哩の上流にある。

米は主要農作物である、耕作の時期は毎年念入りの古式による儀式を以て始められ、滿十ヶ月は全人口の八割が米田に働く、米が常食であるが剩餘も多いから、印度及佛領印度支那について世界第三の米輸出國であり、世界全產額の約五分を産し、この國の輸出の約八割をしめる。

最近、南方に於ける護謨樹の生育が成功しかけてきた、甘蔗は見込があるが盛でない。烟草も出来るが支那やアメリカの輸入烟草に競争しなければならぬ、各種の熱帶果實も多い低地シヤムは世界での錫の豐產地である、年々約七千七百噸を産する錫鐵の税金が百五十萬弗位政府に入り輸出の第二位をしめてゐる。北方森林のチークは有名であるが、其產地帯の八割五分までは、歐人の管理に屬してしまつた。スチッククラツクも亦森林の副産物であつて、印度について第二位にある、かくてシヤムの貿易は大戦以後十五ヶ年に大に進歩し一九二八年には輸出一億二千百五十七萬弗に上り輸入八千八百五十萬弗に達した。